オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(81)(HP 収載)
―クレーメルのブラームスの協奏曲―

１．始めに

前報(80)に引き続き、STAGE+のクレーメルによるブラームスの協奏曲の演奏の試聴を実施します。

２．試聴音源

今回は、クレーメルによるブラームスの協奏曲の演奏を選びました。
クレーメル、バーンスタイン＆ウィーン・フィルによるブラームスの協奏曲
1982 年、ムジークフェラインザール
収録日: 1982 年 11 月 6 日
2024 年 1 月 1 日までの期間限定
デジタル時代の名盤としても知られる、1982 年 9 月ウィーンのムジークフェラインザールにおける演奏会のライヴを映像でお届けします。クレーメルは 1976 年にカラヤンの指揮するベルリン・フィルともブラームスのヴァイオリン協奏曲を録音していますが、このバーンスタインとの共演では第 1 楽章のカデンツァに一般的なヨアヒムやクライスラーの作（※カラヤン盤）ではなく、マックス・レーガーの《前奏曲とフーガ ニ短調》の前奏曲を使用したのも当時話題を呼びました。厳しい集中力と鋭い感性に貫かれたクレーメルの緻密な表現が、ウィーン・フィルの美しい響きと拮抗して織りなす、彫りの深い音楽をじっくりとご堪能ください。
ソリスト:
ギドン・クレーメル（ヴァイオリン)、ミッシャ・マイスキー（チェロ)
演奏:
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
指揮:
レナード・バーンスタイン
曲目:
ヨハネス・ブラームス
ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲イ短調 op. 102

クレーメル、バーンスタイン＆ウィーン・フィルによるブラームスの協奏曲
1982 年、ムジークフェラインザール
収録日: 1982 年 9 月 20 日
2024 年 1 月 1 日までの期間限定
デジタル時代の名盤としても知られる、1982 年 9 月ウィーンのムジークフェラインザールにおける演奏会のライヴを映像でお届けします。クレーメルは 1976 年にカラヤンの指揮するベルリン・フィルともブラームスのヴァイオリン協奏曲を録音していますが、このバーンスタインとの共演では第 1 楽章のカデンツァに一般的なヨアヒムやクライスラーの作（※カラヤン盤）ではなく、マックス・レーガーの《前奏曲とフーガ ニ短調》の前奏曲を使用したのも当時話題を呼びました。厳しい集中力と鋭い感性に貫かれたクレーメルの緻密な表現が、ウィーン・フィルの美しい響きと拮抗して織りなす、彫りの深い音楽をじっくりとご堪能ください。
ソリスト:
ギドン・クレーメル (ヴァイオリン)
演奏:
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
指揮:
レナード・バーンスタイン
曲目:
ヨハネス・ブラームス　ヴァイオリン協奏曲ニ長調 op. 77

３．試聴の経過

ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲イ短調は、クレーメルがマイスキーとコンビを組んでの演奏です。この曲は、ヴァイオリンとチェロの協奏曲というよりは、互いに競いあう「競争曲」のような曲ですが、マイスキーのチェロのアタックから始まり、若いクレーメルとマイスキーの二人の強烈な個性がぶつかりあうような演奏です。

ブラームスのヴァイオリン協奏曲ニ長調は、クレーメルのボウイングのアタック感が強烈で、第３楽章などは、神がかったような演奏です。バーンスタインのダイナミックな指揮に応え、ウィーン・フィルもクレーメルと一体となって演奏を盛り上げています。

４．まとめ

仮想アースや LAN iSilencer の追加で、クレーメルとマイスキーの個性的なブラームスを聴くことができました。

以上